上尾市立上平小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

「心豊かで思いやりがあり、
自ら学ぶ健康でたくましい子」

学校課題研究主題

夢を語り、未来を拓く児童生徒
「ウェルビーイングの向上を目指す児童」
～国語の教育からのアプローチ～

学力・学習状況調査の結果

R８全国学力・学習状況調査	R８埼玉県学力・学習状況調査	R７上尾市立小・中学校学力調査
○国語 ・平均正答率（65.0%）は、全国（60.9%）を大きく上回った。話す・聞くや記述力に強みがある一方、漢字の書き取りや自らの経験を交えて表現する記述に課題が見られた。 ○算数 ・平均正答率（61.0%）は、全国（56.4%）を大きく上回った。体積や複雑な表の読み取りに強みがある一方、概数や割合で基準量を求める問題に若干の課題が見られた。	○国語 ・全学年で平均正答率が県平均を上回った。５・６年生は学力を伸ばした児童が８割を超え、伸長が著しい一方、主語の把握や記述・短答式の精度に課題が見られた。 ○算数 ・平均正答率は全学年で県平均を上回ったが、６年生は学力を伸ばした割合が県平均を下回った。図形や単位換算、理由を説明する記述式問題に課題が見られた。	○国語 ・平均正答率は全国と比べて、どの学年も同等であった。経年比較では、３年生以外は全国を少し下回った。「条件作文」はルールを守って書くことができる児童が多かった。主体的に学習に取り組む態度は、目標値を上回る学年が多かった。 ○算数 ・平均正答率は全国と比べて、２～５年生は同等であり、６年生は下回った。経年比較では２年生以外は全国を下回った。「変化と関係や図形」の領域での「記述問題」に課題が見られた。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○一般的な語句や専門用語などの特質を理解し、適切に使うことができる力 ○既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力 ○必要な情報を精査する力	○記述されている内容を正しく理解する力 ○自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして記述する力 ○自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして発表する力	○難しい問題について、先生に聞いたり調べたりして粘り強く取り組む力 ○児童が自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力 ○学んだことを実生活の様々な場面で活用する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○児童の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、習熟度別の指導等、指導方法の工夫を図る。 ○互いの意見や考えを広げたり、深めたりする話合い活動を行い、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業を展開する。 ○文章、図表、グラフ等から情報を取り出し、情報同士を関連付ける授業を展開する。	○児童の言葉を生かした授業のまとめを行うことを通して、深い学びを実現する。 ○単元や題材のどこかで必ず、児童が対話を通して主体的に学習課題を解決する場面を設定する。 ○ＩＣＴ機器やＩＣＴ端末を活用した思考を深める学習活動を導入する。	○児童のつまずきの早期発見に努め、個に応じた適切な指導を行う。 ○学習課題の解決に向けて、見通しをもたせ、簡潔で分かりやすい指示・発問を工夫する。 ○授業で学んだことを振り返る時間を確保し、授業内容の確実な定着を図る。

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
・話す、聞く、話し合う、対話、語彙力向上のためのドリルタイム ・図書館教育の充実 ・上平ファームによる体験活動・E-cafe 等の英語・外国語活動 ・高学年デジタル教科書、Google Classroom、まなびポケット、E―ライブラリー、ＩＣＴ端末の活用など、ＩＣＴ教育の推進	・学校応援団、学習ボランティアの活用 ・ＰＴＡ、おやじの会による学習環境の整備 ・読み聞かせボランティアの活用 ・さくら連絡網を活用した情報の共有

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句や専門用語などの特質を理解し、適切に使うことができる力 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力 ③必要な情報を精査する力	④記述されている内容を正しく理解する力 ⑤自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして記述する力 ⑥自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして発表する力	⑦難しい問題について、先生に聞いたり調べたりして粘り強く取り組む力 ⑧児童が自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力 ⑨学んだことを実生活の様々な場面で活用する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①	①掲示板の活用や読書の推進、反復練習を通して正しい日本語にたくさん触れさせる取組。	
算数	②	②計算カードやドリル演習などの反復学習をさせる。ＩＣＴ機器を活用し、個別最適な学び及び習熟の場を設定する取組。	
生活	⑤	⑤観察や制作の活動を通して、自分の気付きを絵や文章で表現させる取組。	
音楽	⑨	⑨楽器の演奏や歌唱の活動を通して、様々な曲に触れ、体全体で音楽に親しませる取組。	
図画工作	⑦	⑦他者の作品を見る活動を通して、もっと良いものを作るために、試行錯誤し、問題解決する力を養う取組。	
体育	⑧	⑧様々な運動に工夫して活動を通して、苦手なことも楽しみながらできるようにさせる取組。	
英語活動	⑨	⑨英語に慣れ親しませ、目的・場面・状況を意識した授業展開をしていく取組。	
特別の教科　道徳	⑥、⑨	⑥今日のねらいを明確にし、道徳的諸価値に迫る発問を吟味する。 ⑨動作化や役割演技を通して、登場人物の心情を考えさせ、自分を振り返る取組。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句や専門用語などの特質を理解し、適切に使うことができる力 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力 ③必要な情報を精査する力	④記述されている内容を正しく理解する力 ⑤自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして記述する力 ⑥自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして発表する力	⑦難しい問題について、先生に聞いたり調べたりして粘り強く取り組む力 ⑧児童が自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力 ⑨学んだことを実生活の様々な場面で活用する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④、⑤、⑥	①単元の導入時に「どんな紹介カードを作りたいか」などのゴールイメージを共有し、言葉を調べる計画を立てる。 ④新出語句の確実な意味理解（辞典活用）や、範読・音読の反復により、内容理解のための語彙力（基礎・基本）を確実に定着させる取組。 ⑤文章構成（筆者の主張）や登場人物の心情 などの読み取った事実（叙述）を根拠として引用し、自分の考えを記述・発表する活用活動。 ⑥単元末に「言葉を引用して書けたこと」を児童が振り返り、教師はそのプロセスを「客観的な事実に基づいている」と具体的に認めることで、書くことへの自信を育む取組。	
社会	②、③、⑦	調べ学習や見学の前に「何を調べたいか」「どうやって調べるか」の簡単な計画（問い）を立てる。 写真やグラフ等の資料から基礎的な情報を正確に読み取り、整理する力を定着させる取組。 読み取った事実を基に「なぜそうなのか」を多角的に話し合い、多様な見方や新たな知識を得る活用活動（ICTでの意見共有を含む）。 「資料から～を見つけられた」という児童の気づきを教師がクラス全体で価値づけ（認める）、探究的な学びへの自己効力感を高める取組。	
算数	②、⑤、⑦	問題を解く前に「図、式、表のどれを使って解くか」の簡単な解決見通し（計画）を立てる。 既習事項の想起を丁寧に行い、新しい計算や概念の定着	

		を図る(AI ドリル等を活用した個別最適な学習を含む)。 定着した計算や考え方を用いて、日常生活の場面や応用課題に挑戦し、自分の解法を他者と比較・検討する活動。 「分からないことや疑問を素直に質問できたこと」や「粘り強く解決しようとしたプロセス」を教師が認め、つまずきを恐れない自信を育む取組。	
理科	②、③、⑦	観察や実験の前に、予想（仮説）を立て、「どうやって確かめるか（手順・計画)」を児童自らがイメージする。 実験器具の正しい使い方や観察の基本ルールなど、安全に活動するための基礎基本を確実に指導する取組。 実験で得られた結果（科学的知識）を整理し、身の回りの自然現象の解決に生かす（活用)。 「実験の手順に沿って安全に取り組めた」「丁寧な記録ができた」など、個々の役割や努力を教師が認め、科学的な見方・考え方に自信を持たせる取組。	
音楽	①、⑥	「どんな雰囲気で演奏したいか」を考え、強弱や速さについての簡単な演奏計画をペアやグループで立てる。 音符や記号、リコーダーの運指など、表現に必要な基礎的技術を繰り返し指導し定着させる取組。 習得した技術を基に、グループで表現を工夫して演奏し、互いのよさを聴き合う活動。 「〇〇さんのここの指使いがきれいだった」「強弱がついていた」など、互いの表現の良さを言葉で伝え合い、教師がそれぞれの個性を認め、表現への自己効力感を高める取組。	
図画工作	⑧	アイディアスケッチや必要な材料の書き出しを通じて、自分のつくりたいものや描きたいものの見通し（計画）を最初にじっくり立てる活動。 ハサミやカッター、絵の具等の基本的な用具の使い方を確実に習得させる指導。 計画に基づいて最後まで粘り強く製作に取り組み、形や色を工夫して表現を完成させる（活用)。 完成時および製作プロセスを振り返り、教師が「この色使いの工夫が素晴らしい」「粘り強く修正してつくり上げた」と具体的に認め、児童の「やり遂げた自信」を高める取組。	
体育	⑦、⑨	自分の今のレベル（走・跳、投など）を把握し、「次はどの段階の練習に挑戦するか」の個人やチームでの練習計	

		画を立てる。 運動のポイントを理解し、基礎的な動きを反復練習して安全に技能を習得する取組。 習得した運動のポイントを生かして、ゲームで力を発揮したり、日常生活（外遊び）に結びつけたりする活動。 「難しい動きにも友達とアドバイスし合って粘り強く取り組んだこと」や「自分のめあてをクリアしたこと」を教師が認め、健康な体づくりへの自信（自己効力感）を高める取組。	
外国語活動	①、⑨	誰に、どの既習表現（挨拶や紹介など）を使って伝えるか、発表の簡単な流れを児童が主体的に選んで計画する。 チャンツや ICT を活用したシャドーイング等を通して、基礎的な表現や音声に繰り返し慣れ親しみ、定着を図る取組。 習得した表現を用いて、友達や教師と実際に体験的なコミュニケーションを図る活動。 「相手の目を見て笑顔で話せた」「ジェスチャーを使って伝えられた」といったコミュニケーションへの挑戦を教師が最大限に認め、外国語に親しむことへの自信を育む取組。	
特別の教科　道徳	⑤、⑥、⑨	教材を読む前に、日常の自分自身の行動や考えを振り返り、本時のテーマに対して「自分だったらどうするか」の見通しを持つ。 教材のあらすじや登場人物の立場（基礎基本となる内容）を正しく理解し、ねらいに沿った発問から道徳的諸価値の理解を深める取組。 対話活動を通してお互いの多様な考えを共有・整理し、自らの実生活にどう生かすか（活用）を考える活動。 「友達の考えを尊重して聴けたこと」や「自分の本音を素直に表現できたこと」を教師が肯定的に認め、自己を深く見つめ、自己の良さに気づく自信を持たせる取組。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句や専門用語などの特質を理解し、適切に使うことができる力 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力 ③必要な情報を精査する力	④記述されている内容を正しく理解する力 ⑤自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして記述する力 ⑥自分の考えを、理由や根拠などの裏付けをして発表する力	⑦難しい問題について、先生に聞いたり調べたりして粘り強く取り組む力 ⑧児童が自ら学習の見通しを立てたり、振り返ったりする力 ⑨学んだことを実生活の様々な場面で活用する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、⑤、⑥	①基礎基本の確実な定着のために、主語や述語、言葉の使い方等を反復して学習する取組。 ⑤児童が自分の考えをノート等に記述する時間を確保し、筆者の考えから自分はどう考えるか、考えをまとめる活動を組みこむ取組。 ⑥筋道の通った発表ができるように、文章の構成や展開を考えさせる取組。	
社会	③、⑤、⑦	⑦身の回りにある産業を観察、見学等の体験的な活動を充実させる取組。 ③１人１台端末や資料を活用して、自ら考えたり、調べたりする問題解決型の授業を意図的に行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る取組。 ⑤調べたことを基に Google Classroom やまなびポケットを活用した意見の交流や協働学習などを通して、考えたことを説明したり、話し合ったりする取組。	
算数	②、⑤	②既習事項を提示し、問題解決に向けた見通しをもたせ、自力解決につなげられるようにする取組。 ⑤友達の考えがどのような考えなのか、自分の考えと比較し、共通性や差異に気付かせ、根拠をもって考え説明できるようにする取組。	
理科	②、⑧	②既習事項や体験から自然の事物・現象を予想し、実験・観察方法を考える場面や結果処理・考察の場面で、意見交換や議論をし、自分の考えをより妥当なものにする取組。 ⑧自分の立てた予想を、結果や考察と比較し、振り返りを行う取組。	

音楽	⑥、⑧	⑥思いや意図をもって表現できるよう、音楽の見方考え方をもとにグループで話合いをしたり自分の考えを記入したりする活動を取り入れる取組。 ⑧ICT 機器を活用し、自分たちの演奏や本時の授業をふりかえさせる取組。	
図画工作	③、⑤	③自分なりの考えやイメージを深め、広げられるような技法や資料を提示し、アイデアスケッチなどから作成の見通しを立てる活動を行う取組。 ⑤作品について言語による発表の場を設定する取組。	
家庭	②、⑨	②日常生活につながる実践的・体験的な活動を多く取り入れ、繰り返し学習が行えるように家庭と連携し、実践力を高める取組。 ⑨家族や地域と共に生きることに目を向け、身近な人や環境に感謝を伝えるための計画を話し合い、よりよい生活の工夫について考えさせる取組。	
体育	②、⑤	②授業のねらいを明確にし、児童に伝えるとともに、個別指導を充実させる取組。 ⑤規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えさせる取組。	
外国語科	②、⑨	②言語活動を工夫し、新出表現と共に既習表現を繰り返し指導する取組。 ⑨挨拶や日常会話を、日本語と合わせて英語でも話し、学んだことを実生活の様々な場面で活用させる取組。	
特別の教科　道徳	⑥、⑨	⑥価値について、主体的に考えることができるように、問題解決的な学習を取り入れた取組。 ⑨話合い活動を通して、友達の意見を聞き入れながら自分の生活を振り返り、これからの生き方を考えさせる取組。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
ドリルタイムの実施	・毎週火曜日に、お題を決めた『グループトークやディベート』、国語の教科書に載っている「言葉の宝箱」を使った『文章作り』、ICT 端末を使用した個別のドリル学習を行い、児童の話す力・聞く力・話し合う力・語彙力の向上を目指す。
読書タイム	・毎週月曜日に、全校児童で読書に親しむ時間を確保し、心を落ち着かせて授業に臨む集中力を高める。
上平ファーム	・苗を植えたり、収穫したりするなど、学校ファームを活用して体験的な活動を充実させる。
読み聞かせボランティア	・読書習慣を身に付けるために、木曜日に図書館や多目的室で学校応援団の方による読み聞かせの時間を行うともに、朝の活動で、自学級や他学級の教師による読み聞かせやボランティアの方による読み聞かせを行う。
E-cafe、E-ラウンジの実施	・E-cafe：毎週金曜日の業間休みに、E-Land（外国語教室）で E-ラウンジ：毎週火曜日の業間休みに、E-Room（外国語教室）で 児童とＡＬＴが自由にコミュニケーションを図る機会をもつことで、その楽しさに気付かせ、児童の英語に対する意欲を高める。
家庭学習の充実	・まなびポケットや Google Classroom、ドリルプラネット、E-ライブラリー等を活用し、家庭の連携した学習の充実を図る。
家庭教育との連携	
音読の取組	・音読カードを使用し、毎日の児童の音読の点検を家庭に依頼する。
家庭への発信	・学校だより・学年通信やさくら連絡網、学校 HP 等を使い学校の様子を伝え、連絡を密にする。
学校応援団の活用	・学習活動、学校行事、環境整備等への支援をとおして、児童が意欲的に学習に取り組む環境づくりを連携して行う。